



82nd

報 告 書

2012.4.1 - 2013.3.31

〔 特 集 〕

- ① 好調なスバル北米販売
- ② NEW MODELS
SUBARU XV HYBRID

株主のみなさまには平素よりご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第82期(2012年度)の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2012年度につきましては、一昨年導入したインプレッサシリーズがすべての市場で販売を伸ばしたことに加えまして、スバル BRZの投入効果などもあり、全世界での連結販売台数は過去最高となる724千台を記録することができました。これにより当社の売上高は、過去最高となる1兆9,130億円、利益面につきましても、いずれも過去最高の営業利益1,204億円、経常利益1,006億円、当期純利益1,196億円となりました。

これらの好業績は、年度後半からの円高是正の効果もございましたが、中期経営計画「Motion-V(モーションファイブ)」に基づいた、スバルらしい商品の投入、米国市場を中心とした販売台数の拡大、工場の高稼働化、原価低減活動などの取り組みの成果だと考えております。

このような状況の中、株主の皆様への利益還元といたしまして、期末配当は1株当たり10円とさせていただくことといたしました。これにより、1株当たりの年間配当金は中間配当金5円と合わせまして15円となります。

また、2013年度につきましては、昨年から各国で導入し好評をいただいている新型フォレスターが年度を通じて販売に貢献することが見込まれることから、過去最高となる752千台の連結販売台数を見込み、売上高2兆500億円、営業利益1,800億円、経常利益1,750億円、当期純利益1,100億円を計画しております。今年度も株主の皆様のご期待に応えられるよう、年度計画の達成に向け邁進してまいりたいと存じます。

さて、ここで当社の将来の成長に向けた取り組みについて、2点ご紹介させていただきたいと思います。まず1点目は、商品に関する取り組みです。当社は、今月スバル初のハ

イブリッドカー「スバル XV ハイブリッド」を発売いたします。この「スバル XV ハイブリッド」は、今後確実に進むクルマの電動化に向けた当社としての第一歩であり、電動化時代におきましても「スバルらしさ」、Fun to Driveを実感できるハイブリッドを提案してまいります。詳細につきましては特集ページに記載しておりますのでご覧ください。

2点目は、好調な販売を支える生産体制の増強です。当社は、最重点市場である北米市場の生産拠点、スバル オブインディアナ オートモーティブ インク(SIA)の生産能力を増強いたします。これにより、2016年末には、SIAのスバルの生産能力を現在の年間20万台から30万台とし、国内の生産能力と合わせたスバルの全生産能力は90万台となる見通しです。

当社は、これらの商品、生産に関する取り組みにより、企業としての更なる成長を目指してまいりたいと存じます。

結びにあたりまして、本年、当社は創立60周年を迎えます。これもひとえに、株主の皆様を始め、世界中でスバルをご愛顧頂いているお客様のご支援の賜物と、厚く御礼申し上げます。今後も経営ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を目指し、グループ一丸となって取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月



代表取締役社長

吉永 泰之

営業の概況（連結）

当連結会計年度の売上高につきましては、自動車売上台数の増加に加え、為替の円高が是正される方向に推移したことなどにより、1兆9,130億円と前期に比べ3,959億円(26.1%)の増収となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に伴い、営業利益が1,204億円と前期に比べ765億円(173.9%)の増益となり、経常利益につきましても、1,006億円と前期に比べ633億円(169.9%)の増益となりました。また、当期純利益につきましては、最近の堅調な業績動向を踏まえ繰延税金資産の回収可能性について見直しを

行った結果、将来にわたり課税所得の発生が見込まれることから、法人税等調整額を442億円計上したことなどにより、1,196億円と前期に比べ811億円(211.0%)の増益となりました。

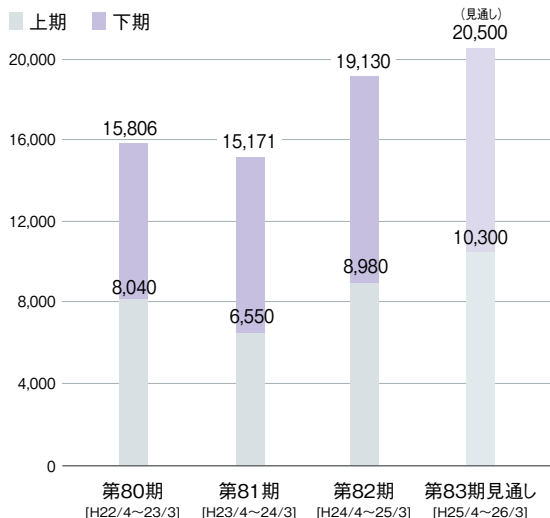
● 通期見通し

通期の連結業績につきましては、売上高2兆500億円、営業利益1,800億円、経常利益1,750億円、当期純利益1,100億円を予想しております。

連結の業績および推移

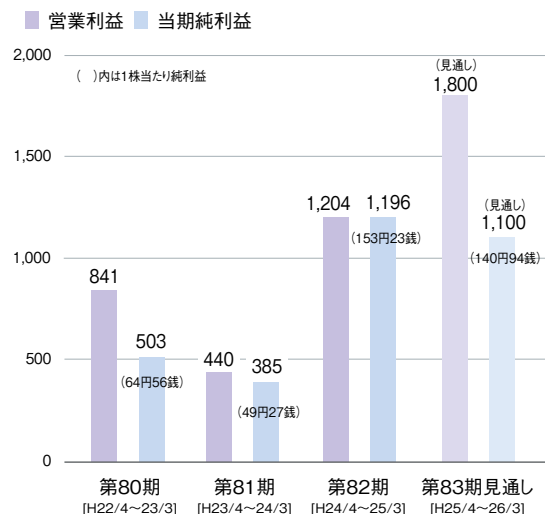
売上高の推移

(単位:億円)



利益の推移

(単位:億円)



自動車事業部門

過去最高の全世界売上台数を記録し増収増益

スバルの国内の登録車につきましては、「インプレッサ」の販売が年度を通して好調に推移したことや、「SUBARU XV」や「新型フォレスター」などの新型車、「レガシィ」、「SUBARU BRZ」が台数の上積みで寄与したことにより、売上台数は113千台と前期に比べ33千台(40.7%)の増加となりました。

一方、軽自動車につきましては、乗用系車種が新型車の投入などにより堅調に推移したものの、商用系車種による落ち込みをカバーできず、売上台数は50千台と前期に比べ42千台(45.4%)の減少となりました。

これらの結果、国内における売上台数の合計は163千台と前期に比べ9千台(5.3%)の減少となりました。

海外につきましては、年度後半には反日デモの影響により中国市場での売上の減速があったものの、北米を中心に「インプレッサ」および「SUBARU XV」が年度を通して好調を維持したことで、全市場で前期を上回ることができました。

これらの結果、海外における売上台数の合計は561千台と前期に比べ94千台(20.1%)の増加となりました。

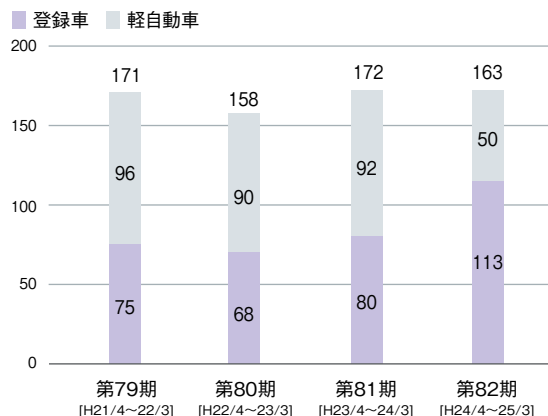
地域別には、北米で390千台と前期に比べ82千台(26.4%)の増加、中国で50千台と2千台(3.9%)の増加、ロシアを含む欧州で61千台と6千台(11.2%)の増加、豪州で38千台と1千台(3.2%)の増加、その他地域で22千台と3千台(15.9%)の増加となりました。

以上の結果、国内と海外を合わせた売上台数は過去最高となる724千台と、前期に比べ85千台(13.2%)の増加となり、為替の円高が是正されたことも加わり、自動車事業全体の売上高は1兆7,790億円と前期に比べ3,899億円(28.1%)の増収となりました。

セグメント利益につきましては、1,110億円と前期に比べ716億円(181.7%)の増益となりました。

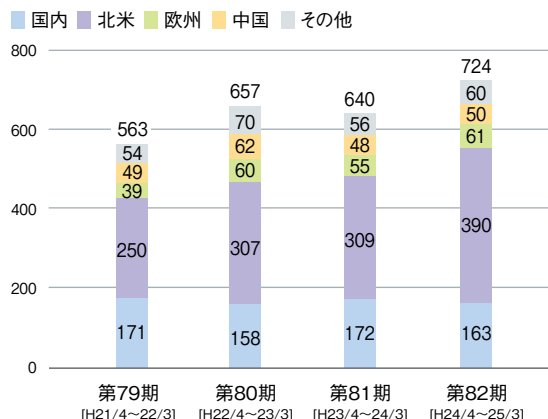
売上台数の推移(国内)

(単位:千台)



売上台数の推移(世界)

(単位:千台)



航空宇宙事業部門

ボーイング777、787の売上増加により増収増益

防衛省向け製品では、輸送機「C-2」の量産開始による売上増があるものの、多用途ヘリコプター「UH-1J」の売上減などにより、売上高は前期を下回りました。

一方、民間向け製品では、円高が是正されたこと、および「ボーイング777」、「ボーイング787」の売上増加などによ

り、売上高は前期を上回りました。

以上の結果、全体の売上高は891億円と前期に比べ89億円(11.1%)の増収となり、セグメント利益につきましても、68億円と前期に比べ39億円(136.6%)の増益となりました。

産業機器事業部門

震災復興需要の一巡により減収

国内農機向けや中東向け発電機の販売は伸長したものの、震災復興需要の一巡により国内向けエンジンや発電機の販売が減少したことや、海外向けエンジンやポンプの販売が減少したことなどにより、売上高は301億円と前期に

比べ35億円(10.3%)の減収となりましたが、セグメント利益につきましても、売上構成の改善などにより6億円と前期に比べ1億円(27.2%)の増益となりました。

その他事業部門

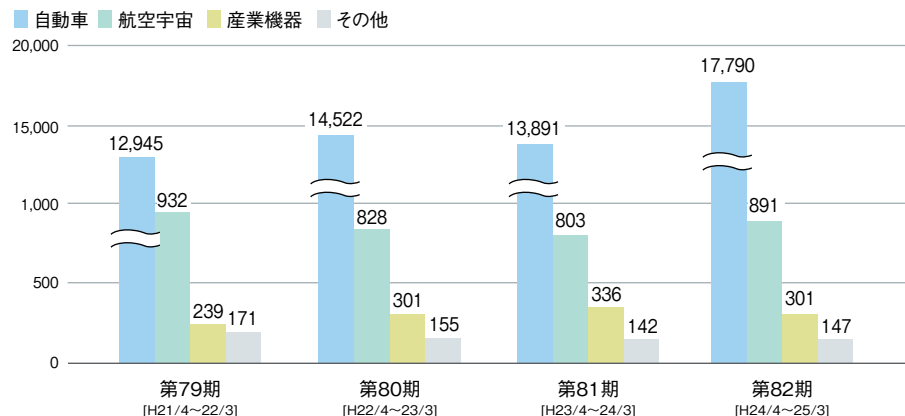
風力発電システム事業の事業譲渡に伴う売上高増加などにより増収増益

塵芥収集車事業を新明和工業株式会社へ事業譲渡したことにより塵芥収集車「フジマイティ」の売上台数が前期を下回ったものの、風力発電システム事業を株式会社日立製作所へ事業譲渡したことなどにより、売上高は147億円

と前期に比べ5億円(3.8%)の増収となり、セグメント利益につきましても、16億円と前期に比べ6億円(57.2%)の増益となりました。

部門別売上高の推移

(単位:億円)



連結貸借対照表

単位:百万円

科目	第82期 平成25年3月31日現在	第81期 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	285,152	237,614
受取手形及び売掛金	124,234	117,062
リース投資資産	22,145	21,865
有価証券	66,370	31,635
商品及び製品	163,852	121,686
仕掛品	50,498	56,143
原材料及び貯蔵品	35,217	33,715
繰延税金資産	52,947	17,399
短期貸付金	96,990	78,788
その他	47,579	48,019
貸倒引当金	△ 951	△ 1,395
流動資産合計	944,033	762,531
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	113,186	113,359
機械装置及び運搬具(純額)	116,864	99,222
土地	173,012	171,920
賃貸用車両及び器具(純額)	13,062	12,361
建設仮勘定	14,232	12,023
その他(純額)	14,599	17,206
有形固定資産合計	444,955	426,091
無形固定資産		
その他	12,751	11,818
無形固定資産合計	12,751	11,818
投資その他の資産		
投資有価証券	93,054	77,714
繰延税金資産	6,227	1,873
その他	80,425	76,089
貸倒引当金	△ 3,991	△ 3,584
投資その他の資産合計	175,715	152,092
固定資産合計	633,421	590,001
資産合計	1,577,454	1,352,532

科目	第82期 平成25年3月31日現在	第81期 平成24年3月31日現在
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	242,743	251,043
電子記録債務	61,595	-
短期借入金	60,867	71,040
1年内返済予定の長期借入金	45,197	23,786
1年内償還予定の社債	10	20,010
未払法人税等	7,828	4,600
未払費用	83,032	69,437
賞与引当金	17,865	16,478
製品保証引当金	34,740	28,861
工事損失引当金	918	2,841
事業譲渡損失引当金	2,550	4,177
訴訟損失引当金	369	-
その他	99,317	69,362
流動負債合計	657,031	561,635
固定負債		
社債	14,060	4,070
長期借入金	187,023	222,074
繰延税金負債	19,139	22,740
退職給付引当金	34,917	33,950
役員退職慰労引当金	457	469
その他	68,014	55,987
固定負債合計	323,610	339,290
負債合計	980,641	900,925
純資産の部		
株主資本		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,071
利益剰余金	301,357	188,538
自己株式	△ 1,292	△ 1,259
株主資本合計	613,931	501,145
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,882	18,966
為替換算調整勘定	△ 46,448	△ 69,809
その他の包括利益累計額合計	△ 18,566	△ 50,843
少数株主持分	1,448	1,305
純資産合計	596,813	451,607
負債純資産合計	1,577,454	1,352,532

2

3

1

[注]百万円未満四捨五入

連結損益計算書

単位:百万円

科目	第82期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日	第81期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日
売上高	1,912,968	1,517,105
売上総利益	411,159	294,686
販売費及び一般管理費	290,748	250,727
営業利益	120,411	43,959
営業外収益	3,768	6,885
営業外費用	23,570	13,567
経常利益	100,609	37,277
特別利益	4,988	33,029
特別損失	12,515	17,427
税金等調整前当期純利益	93,082	52,879
法人税等	△ 26,650	14,329
少数株主損益調整前当期純利益	119,732	38,550
少数株主利益	144	97
当期純利益	119,588	38,453

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ① 資産合計

資産は現金及び預金が475億円、生産台数の増加によりたな卸資産が380億円増加したことに加え、新たに海外の販売子会社を連結範囲に含めたことによる資産の増加があったことなどにより、2,249億円の増加となりました。

Point ▶ ② 負債合計

負債は支払手形及び買掛金と電子記録債務を合わせた仕入債務が533億円増加したことなどにより、797億円の増加となりました。

Point ▶ ③ 純資産合計

純資産は当期純利益を計上したことなどにより、利益剰余金が1,128億円増加したことにより、1,452億円の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	第82期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日	第81期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	166,715	54,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 71,370	△ 26,602
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 60,766	2,586
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,964	△ 332
現金及び現金同等物の増減額	49,543	30,517
現金及び現金同等物の期首残高	258,084	227,704
連結範囲の変更に伴う増減額(△は減少)	21,320	△ 137
現金及び現金同等物の期末残高	328,947	258,084

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ④

営業活動によるキャッシュ・フロー

前年度は震災影響により生産が低下し、運転資金が悪化していたものの、今年度は販売が拡大し、生産も高操業で推移したことから、1,119億円の増加となる1,667億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

国内生産拠点の生産能力増強を行ったことに加え、前年度はスバルビルの売却益があったことなどから、448億円の減少となる△714億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

前年度は震災後の対応として、借入金を増やした一方で、今年度は有利子負債を削減したことから、634億円の減少となる△608億円となりました。

北米市場の販売台数が 過去最高を記録

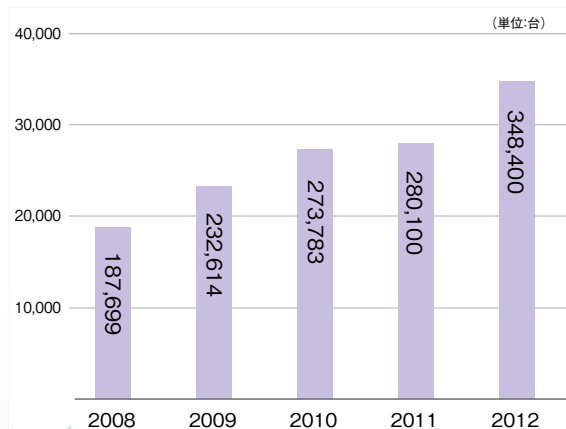
米国では初の30万台越え



景気回復が進む北米において、日本の各自動車メーカーが販売を伸ばしていますが、中でも大きな躍進を見せているのがスバル。米国においては、4年連続販売台数新記録、5年連続対前年比越えを達成し、昨年度の販売台数もついに過去最高となる30万台を突破。カナダにおいても3万台越えを記録し、こちらも過去最高となりました。

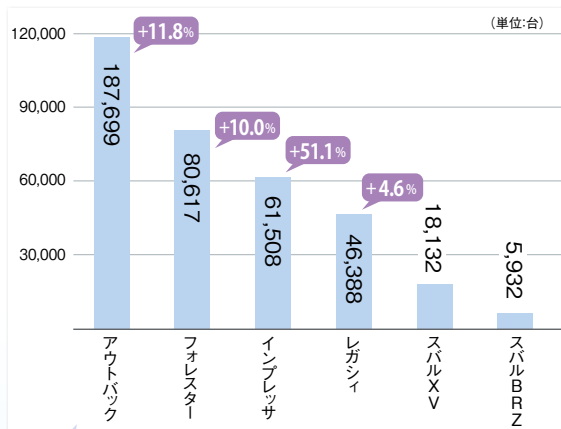
この特集では世界販売台数の半数近くを占める米国での販売状況についてご報告します。

● 米国市場でのスバル販売状況



2012年度の米国での販売は、これまでの2011年度の280,100台を大幅に上回る348,400台で年度小売販売新記録となりました。2006年時点では1.2%程だったマーケットシェアも今では2%を超え、米国市場においてスバルブランドの存在感が飛躍的に増えています。

● 主なスバル車種別販売台数



新型インプレッサが前年同期比+51.1%と大きく台数を伸ばしたのをはじめ、新エンジンを採用したレガシィ(前年同期比+4.6%)およびアウトバック(同+11.8%)、さらにフォレスター(同+10.0%)など、主要車種がいずれも堅調に推移。昨年導入したスバルXV、スバルBRZも販売台数を伸ばしました。

米国での販売戦略・ユーザー層

機能的価値から情緒的価値の訴求へ

米国において2007年から展開している「LOVEキャンペーン」。それまでの水平対向エンジンやシンメトリカルAWDといった“技術”や“機能”に主眼を置いた戦略を見直し、“情緒”や“感性”に訴えかけるマーケティング手法に変換しました。スバルへの愛情をテーマにしたこの広告戦略は米国ユーザーの心を捉え、スバルブランドがこれまで以上に多くのお客様に受け入れられています。



高所得層の多い米国スバルユーザー

スバルの米国ユーザーの特徴として、教育関係者や技術者、経営者といった比較的高所得の方が多いことが挙げられます。高所得層が多いことから、2008年のリーマンショックでもスバルは大きな影響を受けませんでした。もうひとつ、米国スバルユーザーの特長は“スバル愛”が強いこと。スバルに対して“Like”ではなく“Love”の愛情を持つ、米国版スバリストが続々と生まれているのです。

日本以上に高い安全性に対する意識

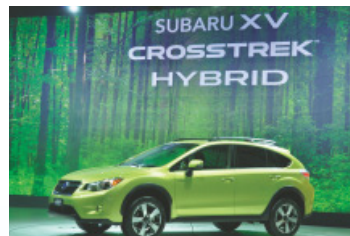
米国ユーザーにとって安全性の高さは、日本以上に大きなクルマ選びのポイントとなっています。IIHS(米国道路安全保険協会)で全モデルが最高評価を獲得したことにより、“スバル＝安全”の認識が強まっています。



今後の展望

さらなる販売体制の強化

スバルXVをベースとしたハイブリッド車を投入。ハイブリッド導入を契機に、新しい顧客層にアプローチするなど販売機会の創出に努め、販売体制強化を図ります。さらに2016年度までに米生産子会社の能力を年20万台から30万台に引き上げる予定です。



スバルシェア拡大に向けて

AWD性能への評価が高いこともあり、スノーベルト地域でのシェアが高いスバル。今後は、南部などのサンベルトのシェア拡大を図ります。特に先述のハイブリッドカーは、サンベルト地域のユーザーにアピールできるモデルと位置付けています。



スバルの個性を活かした SUBARU XV HYBRID誕生

スバル初となるハイブリッドカー“SUBARU XV HYBRID”がいよいよ発表・発売を迎えました。市場に数多くのハイブリッドカーが存在する中で、スバルが提案すべきハイブリッドカーとは何か。それを徹底的に突き詰め、生み出されたのがSUBARU XV HYBRIDです。ここではスバルの個性を存分に活かした、ハイブリッドカーのポイントを紹介いたします。

SUBARU XV HYBRID



スバルならではのハイブリッドシステムの特長

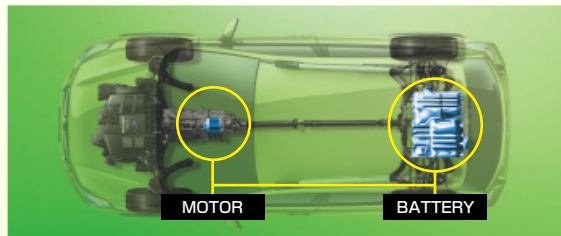
低燃費かつ優れた動力性能

軽自動車約1台分*のトルクを発揮するモーターがエンジンをアシスト。低速域では、モーターのみのEV走行も可能で、実用燃費向上に貢献します。モーターアシストならではのリニアで軽快な加速が楽しめます。



シンメトリカルAWDによる運動性能はそのまま

モーターとバッテリーを左右対称に低く配置する独自のレイアウトや足回りの専用設計により、安定感のある上質な走りを実現。カテゴリーを越えた思い通りのハンドリングを愉しめます。





目指したのは“FUN TO DRIVE”を 実感できるハイブリッドカー

スバルが掲げる「安心と愉しさ」をより高い次元へ。優れた運動性能や走破性、スタイリッシュなデザインなどの特長を持つSUBARU XVの魅力さをさらに引き上げるため、新開発のハイブリッドシステムを搭載しました。燃費性能だけにとどまらない「+@」の価値。それこそが既存のハイブリッドカーの中でも埋没しない、スバルならではのハイブリッドカーの提案です。



ゆとりある居住空間と荷室空間

ハイブリッドカーでありながら、ガソリン車と同等の広々とした室内空間を実現。カーゴルームも十分な容量を確保し、SUVとしての快適性と機能性の双方を高い次元で両立しました。



スバルならではの先進技術と協調制御

アイサイトの機能に「ECOクルーズコントロール」を新採用。モーター走行を最大限に活かしながら、先行車に追従していくので、高速道路での渋滞やロングドライブでも快適&低燃費なツーリングを提供します。



ECOクルーズ
コントロールスイッチ



ステレオカメラ

2013年の SUBARUモータースポーツ活動について



当社と当社のモータースポーツ統括会社であるスバルテクニカインターナショナル株式会社^{*1}は、2013年のSUBARUモータースポーツ活動を次のように実行していきます。

SUPER GTシリーズ

日本国内で最もポピュラーなカテゴリーであるSUPER GTシリーズに、今シーズンも「SUBARU BRZ GT300」で出場します。STIが設計・組上げを担当したこの車両は、2.0リットルBOXERターボエンジンをフロントに搭載し、量産車と同様のFRレイアウトを採用しています。チーム運営は、「R&D SPORT」(代表:本島伸次、神奈川県平塚市)が担当します。STI総監督には引き続きSTIモータースポーツプロジェクト室長の辰己英治が就きます。また、ドライバーも2012年シーズン同様の山野哲也選手、佐々木孝太選手の2名を起用。2年目の本年は、車両に、空力、シャシーなどに改良を加え更なる競争力向上を図るとともに、早期のクラス優勝とシリーズ優勝を目指します。

ニュルブルクリンク 24時間レース

6年連続の挑戦となるニュルブルクリンク24時間レース(ドイツ、5月17日～20日)に、WRX STI 4ドアをベースにパフォーマンスアップした車両で出場しました。STIは、2011年と2012年のSP3Tクラスでクラス優勝を果たしており、本年は三連覇を目指し、車両開発およびチーム運営を統括するチーム総監督は辰己、ドライバーは吉田寿博選手、佐々木孝太選手に欧州のドライバー2名を加えた体制で臨みましたが、惜しくもクラス2位で終了しました。また、本レースには、これまで同様に全国スバル特約店から選抜されたサービスマンがチームクルーとして派遣されました。

FIA世界ラリー選手権2 でSUBARUチャレンジ アワード継続

プロダクション世界ラリー選手権(PWRC)にスバル車で参戦するドライバーへの活動支援として、2011年から行っていた「SUBARUチャレンジアワード」を、本年より新たにスタートするFIA世界ラリー選手権2(WRC2)でも継続します。各イベントでスバル車のグループN(N4)車両として上位2位までのドライバーを表彰し、ドライバー支援を図ります。本年はアワードの対象を全13戦^{*2}とし、WRC2シリーズ登録しているドライバーのほかスポット参戦するドライバーも対象とします。



FIAヨーロッパラリー 選手権への参戦体制

FIA選手権であるヨーロッパラリー選手権(ERC)に、ドライバーの出場支援を行います。ERCは、昨年までマニユファクチャラー登録してきたインターコンチネンタルラリーチャレンジ(IRC)を統合し、EUROSPORT*3がプロモートする新しいラリー選手権です。ドライバーには、これまでIRCで活躍した新井敏弘選手、アンドレアス・アイグナー選手(オーストリア)を予定しております。また、EUROSPORTとマーケティングサポート契約をし、スバル車で出場するチームの写真や動画などの提供・配信により、メディア露出を図っていきます。

*1:スバルテクニカインターナショナル(株)(代表:唐松洋之、東京都三鷹市、略称:STI)

*2:第1戦 モンテカルロも選んで適用

*3:EUROSPORT:ヨーロッパを中心に放映するスポーツ専門チャンネル

先進運転支援システム 「アイサイト(ver.2)」搭載モデルが 国内販売台数10万台を達成

当社が2010年5月に発売した先進運転支援システム「アイサイト(ver.2)」を搭載したモデルの国内累計販売台数が、2013年3月末時点で106,735台*1となり、10万台を超えました。



2012年度の国内販売におけるアイサイト(ver.2)装着率は、装着可能な車種(レガシィ、インプレッサ、フォレスター、エクシーガ)では約70%と大変高い装着率となっています。

「アイサイト(ver.2)」は、自動車はもちろんのこと、歩行者や自転車も対象として前方衝突被害の回避・軽減を図る「プリクラッシュブレーキ」機能や、より自然な追従制御により運転負荷の軽減を図る「全車速追従機能付クルーズコントロール」機能など、多くの機能をスバル独自のステレオカメラのみで実現した先進運転支援システムです。2010年5月の発売以来、優れた機能と10万円というお求め易い価格設定により、お客様からも大変好評をいただいております。

当社は、ブランドステートメントである"Confidence in Motion"を通じて、スバルならではの「安心と愉しさ」の提案を掲げています。この「安心と愉しさ」を支える重要な要素である「安全」を、ALL-AROUND SAFETYの考え方を基に、アクティブセーフティ、パッシブセーフティ、プリクラッシュセーフティ*2の各技術進化により実現していきます。そして、アイサイトを安全技術の重要アイテムとして、引き続き開発を行っていきます。

*1:自社調べ

*2:アクティブセーフティ: 走行性能・危機回避性能による安全性向上

パッシブセーフティ: 衝突安全性による安全性向上

プリクラッシュセーフティ: 先進運転支援システムの警報や自動ブレーキなどによる安全性向上

配当に関する事項

平成25年6月21日開催の当社82期定時株主総会において、期末配当に関する事項は以下のとおり承認可決されました。

(1) 配当財産の種類 金銭

(2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当社普通株式1株につき金 10円 総額7,808,304,250円

なお、中間配当金として5円をお支払いしておりますので、当期の年間配当金は1株につき15円となります。

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日 平成25年6月24日

株式事項 (平成25年3月31日現在)

● 株式の総数

発行可能株式総数 1,500,000,000株

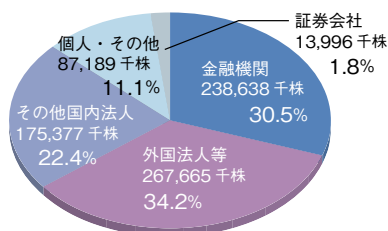
発行済株式の総数 782,865,873株

[注] 当中期の増加 0株

● 株 主 数

38,638名

● 株主の分布状況



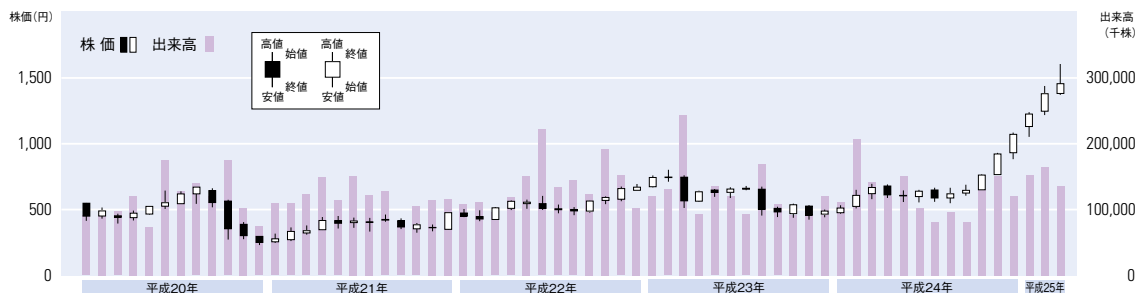
[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式2,035千株が含まれております。

[注2]「その他国内法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式11千株が含まれております。

● 大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.48
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	39,541	5.05
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	33,527	4.28
スズキ株式会社	13,690	1.75
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	13,386	1.71
富士重工業取引先持株会	12,528	1.60
株式会社みずほコーポレート銀行	12,361	1.58
株式会社みずほ銀行	12,017	1.54
日本生命保険相互会社	11,191	1.43
BBH/BLACKROCK GLOBAL ALL OCATION FUND, INC.	10,511	1.34

● 株価の推移



社 名 富士重工業株式会社
 英 文 社 名 Fuji Heavy Industries Ltd.
 創 立 1953年(昭和28年)7月15日
 資 本 金 153,795百万円
 従 業 員 数 12,717名(連結会社合計27,509名)
 主 要 製 品 普通・小型自動車、航空機、汎用エンジン
 本 社 〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
 代 表 電 話 03-3347-2111

役員 (平成25年6月21日現在)

代表取締役社長	吉 永 泰 之	執行役員	中 井 毅
代表取締役副社長	近 藤 潤	執行役員	野 飼 康 伸
取締役専務執行役員	馬 淵 晃	執行役員	高 橋 正 士
取締役専務執行役員	武 藤 直 人	執行役員	飯 田 政 巳
取締役専務執行役員	池 田 智 彦	執行役員	中 村 知 美
取締役専務執行役員	高 橋 充	執行役員	増 田 年 男
取締役専務執行役員	日 月 丈 志	執行役員	細 谷 和 男
☆ 取 締 役	有 馬 利 男	執行役員	大 河 原 正 喜
		執行役員	前 田 聡
専 務 執 行 役 員	灰 本 周 三	執行役員	堤 ひろみ
専 務 執 行 役 員	高 田 充	執行役員	戸 塚 正 一 郎
専 務 執 行 役 員	永 野 尚	執行役員	岡 田 稔 明
常 務 執 行 役 員	鴨 川 珠 樹		
常 務 執 行 役 員	笠 井 雅 博	☆ 常 勤 監 査 役	今 井 伸 茂
常 務 執 行 役 員	小 林 英 俊	常 勤 監 査 役	木 村 正 一
常 務 執 行 役 員	平 川 良 夫	常 勤 監 査 役	齋 藤 典 夫
常 務 執 行 役 員	務 川 達 彦	☆ 監 査 役	山 本 高 稔
常 務 執 行 役 員	小 坂 井 康 雄		

[注] ☆印は会社法に定める社外取締役および社外監査役であります。

株式手続きのご案内

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日
定時株主総会 6月中
単元株式数 1,000株
株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法 電子公告
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告
を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行
います)

株式に関する各種お手続き(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式
に関する買取請求書及び買増請求書等)に関するお問い合わせ、書類のご請求の窓
口につきましては、以下のとおりです。

証券会社に口座をお持ちの場合

お取引の証券会社になります。

なお、未払配当金の支払、支払明細発行については、下記のお取扱店・電話お問
い合わせ先・郵送物送付先をご利用ください。

証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店

みずほ証券株式会社 本店および全国各支店

電話お問い合わせ 0120-288-324(フリーダイヤル)

先郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4

なお、未払い配当金のお支払につきましては、みずほ銀行本店および全国各支店
でもお取り扱いいたします。

表紙PHOTO:SUBARU XV HYBRID 2.0i-L EyeSight プラズマグリーンパール ルーフレールはメーカー装着オプション



PHOTO:レガシィ アウトバック 2.5i EyeSight EX Edition ディープチェリーパール

富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

電話 03-3347-2111

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

